

# 避難の時の注意点

浸水想定区域外への早めの避難が基本です。

## 正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオ・インターネットで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



なお、情報収集の際は偽情報や誤情報に惑わされないよう十分に注意しましょう。

## 避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。



## 高齢者などの避難に協力を

高齢者や子ども、障害者など要配慮者は、早めの避難が必要です。周囲の方々は避難に協力しましょう。



## 自動車での避難は控えて

道路冠水などにより車が水に浸かった場合、浸水深30cmを超えると、エンジンが停止し、50cmを超えると、車内に閉じ込められ車とともに流されるなど、非常に危険な状態となります。

避難所へは、原則、徒歩で避難しましょう。避難所は駐車できません。

なお、避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。



## もしも、逃げ遅れたら

近くの頑丈な建物のなるべく高い階数に避難して救助を待ちましょう。また、屋外での移動ができて命に危険を及ぼしかねない場合には、屋内の高いところや、場合によっては屋上へ移動し、垂直避難を行うことで、身の安全を確保しましょう。



## 浸水場所での避難方法

● 氾濫水は50cmくらいの深さでも、勢いが強いため歩くのが困難な場合があります。緊急避難として、高い頑丈な建物にとどまったり、高い所での救助を待ちましょう。



● はだしや長靴は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。



● 氾濫水は茶色く濁っており、水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。



● 高齢者などは背負いましょう。子どもは浮き袋などを利用して、安全を確保して避難しましょう。



## 地下道などの注意を要する場所

さいたま市内には道路などの立体交差部が数多くあります。とくに、浸水時に水深が深くなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。



## 地下空間の危険性

● 地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。

換気口や採光窓等、思わぬところから水が入ってくる場合があります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。



● 地下室では外の様子がわかりません。

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報等に注意が必要です。また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。



● 浸水すると停電するおそれがあります。

停電すると電灯が消えて真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。



● 水圧でドアは開きません。

ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができなくなります。

